JR PROPO DMSS TL EZ BIND

www.jrpropo.com

XBus RG612BX

6ch 2.4GHz RECEIVER
DMSS 2.4GHz 6ch 受信機

(同軸アンテナダイバシティータイプ・シリアルバス対応・双方向通信対応)

取扱説明書

このたびは、JR製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本製品を正しく安全にご使用いただくためにも、取扱説明書を必ずお読みください。

【TLロゴについて】JRテレメトリーシステム(双方向通信)に対応した製品にのみ記載します。

※DMSS方式製品はDSMJ方式製品との互換性はありません。

特　徴

- FHSS方式により、混変調及び相互変調妨害を受けにくい高感度受信機。
- 機体のバッテリー電圧などの情報をフィードバック可能なテレメトリーシステム搭載。
- 同軸アンテナ２本で 安心且つ確実な通信を実現。(更にリモートアンテナ(別売)を接続し、より安定した通信が可能。)
- LEDの点灯により受信状況が確認可能。
- ２本のアンテナからテレメトリー電波を交互に送信することにより従来より安定したテレメトリー通信を実現。(更にリモートアンテナ(別売)を接続し、より安定したテレメトリー通信が可能。)
- 送信機でのフェイルセーフ設定に対応。
- XBus対応で、多チャンネル化も可能。
- AUX1 / XBusポートが切り替え可能。
- イージーバインド機能搭載。(バインドプラグ不要)

構　成

● RG612BX / 受信機本体 ●スイッチプラグ ● 取扱説明書(本書)

安全にご使用いただくために必ずお守りください。

■はじめにお読みください。

●2.4GHzシステムを安全にご使用頂くための基本的な注意事項

①2.4GHzはラジコン専用の周波数ではありません。この周波数帯は電子レンジ、無線LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ、ゲーム機や携帯電話のBluetooth、VICSなど近距離通信に利用されるISM(産業・科学・医療)バンドと共用されているため、都市部では2.4GHzシステムの操縦レスポンスが低下する可能性があります。また、アマチュア無線、移動識別用構内無線にも使用されているため、これらの影響を注意して使用してください。なお、既設の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は、速やかに電波の発射を停止し、干渉回避対策を実施してください。

②走行場・飛行場では、送受信機に影響を与える可能性のある機器の使用は最小限にし、事前に安全性を確認するようにしてください。また施設の管理者の指示に従ってください。

③同一走行場・飛行場では、同時に使用する2.4GHzプロポの台数は15台以内にしてください。同時に使用される2.4GHzプロポの台数が判るように施設の管理ボード等を利用してください。

④建物や鉄塔・樹木などの後ろを走行や飛行させ、電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスが低下したり操縦不能になる場合があります。常に目視で確認できる範囲で走行や飛行をしてください。

⑤日本国内では、電波法に基づく技術基準適合証明試験を受け、認証番号を記載した認証ラベルが外から見える場所に貼られているプロポが使用できます。ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。

⑥海外からの輸入品等の場合で、上記認証ラベルが貼られていないプロポの使用は電波法違反になり罰せられることがあります。

⑦(財)日本ラジコン電波安全協会は、ラジコン運用を安全に行って頂くための啓発を行っています。同協会の名称の入った認証ラベルが貼られているプロポをご使用ください。

使用者もしくは第三者への危害・財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次のように表示します。

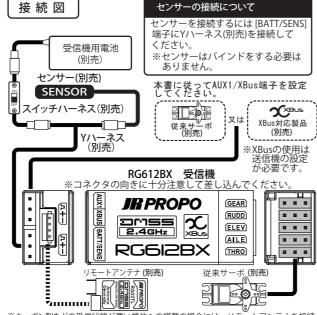
表示	内容
⚠危険	この表示欄の内容は、「使用者もしくは第三者が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることが想定されます。」
⚠警告	この表示欄の内容は、「使用者もしくは第三者が死亡または重症を負う可能性が生じることが想定されます。」
⚠注意	この表示欄の内容は、「使用者もしくは第三者が傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。」

お守りいただく内容を、次の表示で区分し説明します。

記号	内容
❗	この表示で「義務事項」を説明します。
⃠	この表示で「禁止事項」を説明します。

受信機規格

品　番	RG612BX
通信方式	DMSS方式
重　量	9g
寸　法	12.5×18.5×42㎜
動作電圧	4.5-8.5V
備　考	同軸アンテナタイプ （アンテナ/同軸）25/105㎜

接続図

※カーボン製などの受信状態が悪い機体への搭載の場合には、リモートアンテナを接続することを推奨いたします。リモートアンテナを使用する場合は、リモートアンテナを接続した状態でバインドを行ってください。

⚠危険

⃠ **操縦不能となり危険です。**
雨の日の飛行は、送受信機内部に水が入り誤動作の原因となりますのでおやめください。

⃠ **発熱、発火、感電怪我をすることがあります。**
分解、改造をしないでください。

❗ **エンジンやモーター（電動模型の場合）が不意に高回転となり危険です。**
電源スイッチをオンにする時は送信機のスロットルスティックを最スロー（エンジン、モーターの回転が最低回転の位置）にし、送信機の電源スイッチ、次に受信機の電源スイッチの順にオンにして下さい。また、電源をオフにする時は逆に受信機、送信機の順にオフにしてください。

❗ **怪我をする事があります。**
エンジン（モーター）調整は必ず後ろから動作中の動力に細心の注意をはらって行うようにして下さい。送信機のスロットルハイでエンジンをかけることは危険ですのでおやめください。

⚠警告

⃠ **故障の原因となります。**
他社製品（サーボ、ジャイロ等）を組み合わせて使用しないでください。

❗ **誤動作の原因となります。**
送受信機は、精密な電子機器です。強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。

❗ **操縦不能となる可能性が有り危険です。**
飛行中動きが鈍いと感じたらすぐ着陸してバッテリー残量サーボ等の点検を行ってください。

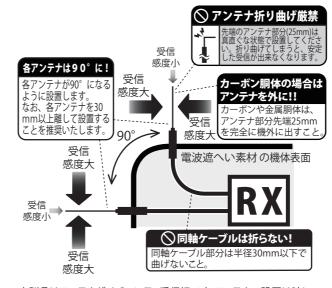
⃠ **以下の場所での飛行は操縦不能や事故の可能性があり危険ですのでおやめ下さい。**
トランシーバー妨害のある時。・車やオートバイの走っている付近。
・高圧線・ビル・土手の近く、山間部等。　・民家や建造物付近、及び人の近く。
・ＦＭやＴＶ放送局、船舶無線等の無線設備の近く。

❗ **突然、誤動作を起こす可能性が有り危険です。**
受信機、サーボ等が水没し完全に乾燥後、正常に動作する場合でも絶対に使用しないでください。

⚠注意

❗ **飛行前に安全のために次のような点検を行って下さい。**
●送受信機のバッテリー残量はあるか。
●燃料タンクの燃料漏れにより受信機やサーボ等に燃料がかかってないか。また、燃料は入っているか。
●機体の振動ノイズの原因となる、リンケージ類が機体や胴体に当たったりしていないかさらに、機体を固定した状態でエンジン（モーター）をハイにして、各舵を動かし完全に動作するかどうか確認して振動テストを行って下さい。初飛行は距離を離さず、安全な場所を選び上空を数分テストフライトして異常の無いことを確認して下さい。

受信機アンテナの設置について

受信機のアンテナは、できるだけ曲げずに搭載してください。絶対に切ったり、折ったり曲げたりしない様に搭載して下さい。カーボン、金属、電池などの電波遮へい素材に直接アンテナを貼り付けた場合受信感度は、著しく低下いたします。同素材に設置する際は、出来る限りアンテナ素材から離す(10mm以上)か、機体自体が電波遮へい素材の場合には、アンテナ(先端25mm)を完全に外に出すようにしてください。

本製品はアンテナダイバーシティ受信機です､アンテナの設置は特に重要ですので上記の注意をよく読んで正しく設置する様にして下さい。

バインド設定方法

■送信機と通信を行うためには必ずバインド(ペアリング)をしなくてはいけません。ここではバインドの設定方法を説明いたします。本機は、バインドプラグを使用しないイージーバインドシステム EZ BIND を採用しています。

1 お手持ちの送信機のマニュアルに従い送信機をバインドモードにし、受信機にバッテリーを接続いたします。
受信機のLEDが点滅を始めバインドを開始いたします。

バッテリーは空チャンネルに接続します。▶

2 受信機のバインドLEDが点滅から点灯に変われば、バインド完了です。

バインドLED点灯点滅箇所(青)
※バインドLEDが消灯のままの場合、最初からやり直してください

※リモートアンテナを使用する場合はリモートアンテナを接続した状態でバインドを行い、リモートアンテナのLEDも点滅から点灯に変わる事を確認してください。

※一度バインドが完了した送受信機で、受信機の電源を先に投入した場合、[3秒]でバインド待機状態となります。バインド待機は[5秒]で終了いたします。

バインド完了後は必ず【送信機】から電源を入れる。

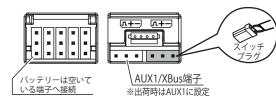
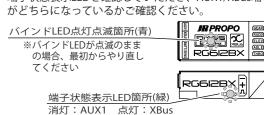
イージーバインド機能によるバインド待機状態時、近くで他の送信機がバインドした場合、バインド情報が上書きされる場合があり大変危険です。必ず送信機から電源を入れるように心がけてください。

バインドがうまくいかない場合、以下のことをご確認ください。

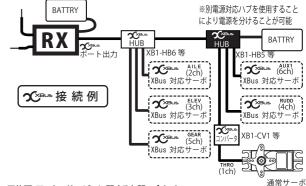
- 送受信機のバッテリー残量は十分ありますか。
- 送信機と受信機の距離が近づきすぎていませんか。
- 金属製の机や台の上では、バインドできない場合があります。

AUX1 ↔ XBus 端子の切り替え方法

■AUX1/ XBus端子は、AUX1かXBusに切り替えて使用が可能です。出荷時はAUX1です。

1 本機は、スイッチプラグを使用して送信機とバインドすることによって、AUX1/XBus端子がAUX1からXBus、XBusからAUX1へと交互に切り替わります。
まずは、お手持ちの送信機マニュアルに従い送信機をバインドモードにし、BATT/SENS端子にスイッチプラグを差し込んだ受信機の電源を入れてください。
受信機のLEDが点滅をはじめバインドを開始いたします。

2 受信機のバインドLEDが点灯に変われば、AUX1/XBus端子の切り替えが完了です。
端子状態表示LEDを確認していただき、AUX1/XBus端子がどちらになっているかご確認ください。

最後にスイッチプラグを抜いた後、送受信機の電源を切ってください。AUX1/XBusの端子状態表示LEDを確認するには、送信機と通信した状態でのみ確認可能です。

XBusについて

XBusシステムは従来ラジコンで使用されていたPWM信号による制御ではなく、XBus対応製品とのシリアルデータ通信方式を採用しています。操作信号は全てのチャンネルが含まれており、其々の機器が自分に割り当てられたデータを選択し動作します。XBus対応製品を接続した後に送信機等でチャンネルの割り当てを設定しないと動作しません。従来の機器を直接接続しないでください。故障の原因となります。別電源用ハブを使用すると下図の様に電源を分けることができます。※XBusポートを使用する場合は、送信機の設定が必要です。

■修理､アフターサービスに関するお問い合わせ

【日本遠隔制御株式会社 ラジコンサービス課】
お問い合せ　TEL:06(6732)0200
● 受付時間／9:00～13:00･14:00～17:30(土･日･祝日及び当社休日を除く)

www.jrpropo.co.jp

日本遠隔制御株式会社
〒577-0809 東大阪市永和2-2-12
TEL：06-6732-0201

NEM-C108B(2015.6)